



明日に向かって 伝える 続ける

パルシステム

放射能レポート

pal*system

2025年6月2回

次回は8月回配付予定です

なぜ検査を続けるの？

パルシステムの商品検査センターの放射能検査



取材した人 かみいし 上石 正明さん

所沢・市民放射線測定室「とこらぼ」代表。
元中学校理科教諭。専門は化学。専門家
らとも連携をとりながら所沢市を拠点に放
射線検査活動を行っている。



団体の意向に沿い、一部放射線検査と表記しています。

くらしの安全を立証するため
放射能検査を続けていきます

震災前と同じ生活に戻ったの？



福島県飯舘村の除去土壌の中間貯留施設

パルシステムは東京電力福島第一原子力発電所事故以降放射能検査を続けています。今回は2012年から活動をつづける埼玉県の「所沢・市民放射線測定室『とこらぼ』」に話を聞きました。

放射能検査を通して安全を立証したい

東京電力福島第一原子力発電所事故後、食品や土、水の放射性物質による汚染を恐れ、数々の市民測定団体が発足しました。しかし、14年が経過し、活動は徐々に縮小しています。行政からの支援打ちきりや関心の低下など、理由は多岐にわたります。

そんななか、行政の支援に頼らず熱心に活動を続ける団体があります。埼玉県所沢市にある「所沢・市民放射線測定室『とこらぼ』」もそのひとつです。代表の上石正明さんは元中学校教諭。引退後も子どものために何かしたい、と思い立ったそうです。

当初は、市内の食品や食材をはじめ、小中学校の学校菜園の放射線検査などを実施。市外からの依頼もあり、測定器は毎日フル稼働だったと言います。

「ピーク時は年間300以上の検体が持ち込まれていました。今は持ち込みが減り、検査数は1/7程度です」

しかし、規模縮小しても、やめるつもりはないそうです。「公園で空間線量の定点観測も続けていますが、同じ園内でも局所的に放射線量が上がる場合があります」

大雨による側溝にたまった放射性物質を含む泥の流出、周囲の石材など天然由来の土に微量の放射性物質が含まれている、など理由はさまざま。

「検査を続けていたからこそわかったことです。これは、次の世代へつなぐべき大事なピースです」

移ろい続ける放射性物質の問題

定点観測の結果以外に、放射線検査を続けるべき理由がもうひとつあると言います。それは国が2045年までに福島県外で最終処分することを定めた「除去土壌」の問題です。

「最初に白羽の矢がたったのが所沢です。2023年9月、除去土壌再利用の実証事業のひとつに、市内にある環境省の環境調査研修所が選ばれました」

環境省の実証事業とは、一定基準を下まわる放射線

量の除去土壌を土木資材として埋め立て、放射線を遮へいするための覆土をして再利用し、その安全性を実証するための事業です。

「計画は一時凍結されましたが、除去土壌の行方はまだ知れず。放射性物質は今も身近にあるかもしれない」

上石さんは、おとなの起こしたことが子どもに不利益を与えることがあってはならないと話します。

「一度起きてしまった事故はなかったことにはなりません。安全性立証のため、検査を続けます」

パルシステムがめざすところも同じです。食やくらしの安全・安心を立証するため、今後も高い自主基準のもと放射能検査を継続します。



「とこらぼ」では放射線検査に「NaIシンチレーション放射線測定器」を使用しています。他の市民測定団体とも連携をとりながら検査を続けています。

所沢・市民放射線測定室「とこらぼ」

2012年、所沢市の有志により活動を開始。子どもたちを内部・外部被ばくから守るため活動を続けています。公開測定を月1回、木曜日に実施。食品や土壌の放射線検査を行っているほか、専門家を招いての勉強会も開催しています。

Facebookでも情報発信しています

所沢・市民放射線測定室

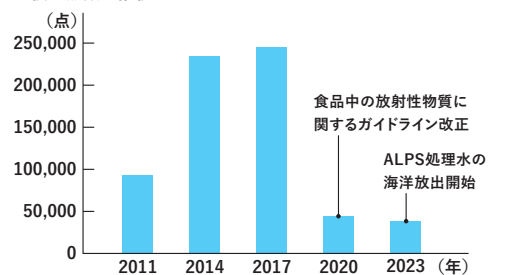


事務所の壁には測定結果がまとめられています

食品放射能検査を取り巻く状況

東京電力福島第一原子力発電所事故後、国は基準値を超える農林水産物が市場に出まわらないよう食品の放射能検査を続けています。しかし、2020年の「検査計画、出荷制限等の品目・区域の設定・解除の考え方」の改正以降、検査は縮小・廃止の傾向にあります。パルシステムは、一部商品を原料検査に切り替えつつ検査を継続。2023年のALPS処理水放出以降は、トリチウムの追加検査も開始し、よりいっそう力を入れています。

検査点数の推移



出典：農林水産省「令和6年 食品中の放射性物質の最近の検出状況」より

パルシシステムの 公式サイトや注文アプリで 放射能検査の結果や 内容が確認できます

放射能対策に取り組み続けます。

パルシシステムは、2011年3月の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故直後から、放射能対策を進めてきました。2011年9月には食品中の放射能の自主基準を設定、国より厳しい基準でお届けする食品の放射能検査を行っています。また、放射能が検出された産地と協力した低減への取り組みや、被災者への支援も続けてきました。今後も放射能検査や対策を続けていきます。

検査結果を毎週お知らせ

公式サイトから見る場合

- ①公式サイトを開く
- ②トップ画面を下にスクロールする
- ③「News お知らせ」から「放射能検査のお知らせ」を探してクリックする

注文アプリから見る場合

- ①トップ画面の「メニュー」をタップする
- ②「メニュー」画面の「商品関連情報」をタップする
- ③「商品関連情報」画面の「放射能検査結果」をタップする

検索して見る場合

放射能 お知らせ パルシシステム

放射能検査のお知らせ	
※最新の放射能検査状況 (2023/10/26~11/1)	※お問い合わせ先
※検査対象品目・検査項目・検査結果一覧	※お問い合わせ先
※検査結果の詳細は、お問い合わせ先へお問い合わせください。	※お問い合わせ先

2023年11月4日から「トリチウム」を検査項目に追加※

※トリチウム検査の結果は、毎週ではなく検査毎に都度更新します。

「お知らせ」のページはこちら



検査基準・方法はここから確認

- ①「パルシシステムの放射能検査はこちら」をタップ



※画面は見本です。

- ②「放射能検査」のページに移ります



「放射能検査」のページはこちら



インターネットから見られない方は、
下記よりお問い合わせをお願いします

パルシシステム問合せセンター

0120-868-014

月～金曜日：9時～20時
土曜日：9時～17時

※通話料は無料です。 ※お問い合わせ内容の確認とサービス向上のために、通話の内容を録音しております。



2024年度 放射能検査状況について 総計:1820 (24) 不検出率:98.7%

検査数 (カッコ内は検出件数)
2025年4月1日現在

2023年度の検査数 総計1929 (26)
不検出率98.6%

青果	312 (1)	ブロッコリー(4.3Bq/kg) から放射能が自主基準内で検出されました。
しいたけ	41 (22)	生しいたけ・お料理セットのしいたけ (3.7~17Bq/kg)、岩手県産乾しいたけ・小粒どんこ (5.1Bq/kg)、冷凍食品の産直原木しいたけ (4.1Bq/kg) から放射能が自主基準内で検出されました。
他のきのこ類	41 (0)	放射性セシウムの検出はありませんでした。
米	32 (0)	産直米は26産地30検体の玄米を検査し、放射性セシウムの検出はありませんでした。
牛乳・乳製品、肉、卵	67 (0)	放射性セシウムの検出はありませんでした。
魚介類	112 (0)	放射性セシウムの検出はありませんでした。
飲料水・飲料	33 (0)	放射性セシウムの検出はありませんでした。
乳幼児用食品	243 (0)	放射性セシウムの検出はありませんでした。
その他加工食品	939 (1)	煮干し粉 (4.1Bq/kg) から放射能が自主基準内で検出されました。

※乳幼児用食品のみ検出下限値1Bq/kg、その他は検出下限値3Bq/kg。

トリチウムの検査結果 総計:11 (0) 不検出率:100%

※検出下限値は0.50、10Bq/kg

組合員の安全・安心のため、検査を続けます。

パルシシステムでは、2011年度の検査開始から2024年度までに、48,000件を超える検査を実施してきました。これは生協のなかでも、多い検査数です。また、精密分析ができるゲルマニウム半導体検出器を使用し検査を行っていることも大きな特徴です。国よりも厳しい基準を設けているため、一部商品から放射性セシウムが検出される場合があります。しかし、そのすべてはパルシシステムの基準値以内の検出となっております。

2024年度は24件の商品で検出されました。例年通り原木しいたけを原料とした商品がメインでしたが、一部青果や海産物でも検出があり、10年以上たった今でも原発事故の影響があると改めて実感します。これからも、組合員に安心を届けるため日々検査を行ってまいりますのでどうぞよろしくお願いします。



商品検査センター職員
朝生美咲